# 久しぶりのソウル－日韓和解と平和プラットフォーム運営委員会などなど

飛田雄一（むくげ通信 315 号、2022 年 11 月 27 日）

3 年ぶりにソウルに行った。3 日間の「日韓和解と平和プラットフォーム」の合同運営委員会参加のためだった。が、久しぶりのソウル、6 泊 7 日の旅とした。

11 月 6 日（日）から 2 泊は、東大門のスカイパークホテル。いつも泊まる東横イン東大門の連泊がとれなかった。日本人の旅行客／ビジネスマン・ウーマンが増えているのか。

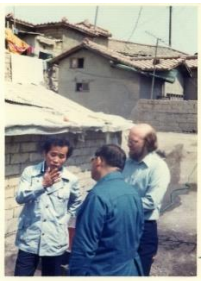
事前に「K-ETA（韓国・電子渡航認証システム）」が必要だった。これはけっこう面倒だった。教えてもらいながら申請した。申請受領のメールをプリントして持参したが、それを見せる場面はなかった。パスポートに連動して記憶されているようだ。

翌 7 日（月）は、まったくフリー。東大門、宗廟、鍾路 5 街、タプコル（パゴダ）公園、鐘閣とぶらぶらした。そして今回の旅の最大の収穫？、クラフトビール 60 種を飲めるビアホール、TAP PUBLIC を発見した。以前、庵逧由香さんに連れて行ってもらったことがあるが、その後、再訪に 2 度も失敗していたのだ。堪能して地下鉄でホテルにもどった。

（探しあてたビール店／60 種のクラフトビールが飲めます）

8 日（火）、デザイナーズホテルソウル駅へ移動。そこで荷物を預けて午後 3 時半の会議までまたうろうろ。

ソウル駅付近をくまなく？歩いて、会議場の大学路へ。大学路でも歩き回り、ランチをし、城壁のある駱山公園にも登った。私の初訪韓、1978 年にこの辺りに来たことを思い出した。キリスト教都市産業宣教の交流会で、東大門北東地域のスラム街を訪問したのだ。帰国後、当時の写真を探したらあった。なつかしいし、若い。髪の毛がたくさんある。



（1978 年、東大門南スラムの教会、飛田と労働者と子ども／右の左は許秉燮牧師）

午後 3 時半、大学路興士団会館に集合。会議のテーマは、「東アジアの平和の危機と韓日市民の対応」。東アジアの平和と日韓市民の応答課題、歴史正義の実現、韓日青年の連帯、3 つのテーマで日本側韓国側がそれぞれ 15 分発表する。私は歴史問題の担当だ。

以下、そのレポートを再録する。

●

「日韓歴史問題をめぐって」

1）　1945 年 8 月 15 日、植民地朝鮮は解放された。日本はアジア・太平洋戦争に敗れた。日本のアジア・太平洋への侵略行為が、連合国およびアジア・太平洋の民衆の力によってうちまかされたのである。

日本の朝鮮植民地支配は当初から不当／不法なものであった。植民地支配に対する賠償責任が日本にある。しかし、日本はその責任をいまだに果たしていない。

2）　1965 年に締結された日韓条約において、本来、日本政府がその責任を果たすべきものであった。しかし、賠償問題を経済協力問題にすりかえ有償無償５憶ドルの借款が「独立祝い金」として支払われたのである。

広く知られているように、日韓基本条約において、1910 年の韓国併合条約が「すでに」、「이미」（イーミ）無効であることを確認したとされた。韓国側の解釈によれば 1910 年にさかのぼって無効／違法である。日本側は条約締結の 1965 年においては、併合条約は存在しないが、当時は合法的なものであり、植民地支配に対する賠償責任はないという立場であった。

3）　この歴史認識の違いが、その後も日韓関係に大きな影を落とすことになる。

1982 年日本では、中国にたいする「侵略」が「進出」に書き換えられとして「教科書問題」が大きくとりあげられることになった。文部省の検定は細部にまで及んだが、朝鮮関係の記述として以下のような例がある。実教出版『世界史』の場合だが、写真説明のなかで、検定前に、「日本の朝鮮侵略に対し、19 世紀末から義兵闘争がおこなわれ‥‥」という記述の「侵略」が検定後の教科書では「侵入」に書き換えられている。（『季刊三千里』32 号、1982 年 11 月）日本政府は、朝鮮植民地支配合法論を、教科書においても主張させたかったという意図が読みとれる。

4）　1992 年 1 月には、いわゆる「慰安婦」問題について当時の宮沢首相が謝罪することになった。

1990 年から、「慰安婦」問題が日本で大きな問題となった。日本政府は、民間業者が勝手にしたもので政府に責任はないという立場であり、そのような主張を国会でもおこなっていた。その「民間業者」説に耐えられないと、1991 年 8 月、韓国で金学順さんは自身が慰安婦であったとする記者会見をおこなったのである。日本政府はその後も「民間業者」説に固執していたが、同年末、中央大学の吉見義明さん（当時）が防衛庁図書館で慰安所運営に軍が関与していることを示す文書を公表したのである。（朝日新聞、1992.1.11）

そのご、同年 1 月 19 日の宮沢首相のソウル訪問のとき、日本政府としての「民間業者」説を撤回（？）して、謝罪をおこなったのである。そして同年 1 月 29 日、宮沢首相は国会においても、「私たちは言葉では言いようのない苦痛を味わった方々に心からの反省の意とお詫びの気持ちを表明いたします」と語ったのである。

5）　1995 年、戦後 50 年の村山首相の 8 月 15 日の戦後 50 周年記念式典に際しての村山内閣総理大臣談話は、次のように述べた。

「わが国は、遠くない過去の一時期、国策を誤り、戦争への道を歩んで国民を存亡の危機に陥れ、植民地支配と侵略によって、多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大の損害と苦痛を与えました。私は、未来に誤ち無からしめんとするが故に、疑うべくもないこの歴史の事実を謙虚に受け止め、ここにあらためて痛切な反省の意を表し、心からのお詫びの気持ちを表明いたします。また、この歴史がもたらした内外すべての犠牲者に深い哀悼の念を捧げます」

1998 年 10 月 8 日、この村山談話を受ける形で、韓国金大中大統領との間で「日韓パートナーシップ宣言」がだされた。1965 年の日本国と大韓民国との間の基本関係に関する条約によって国交が結ばれて以来、過去の両国の関係を総括し、現在の友好協力関係を再確認するとともに、これからあるべき日

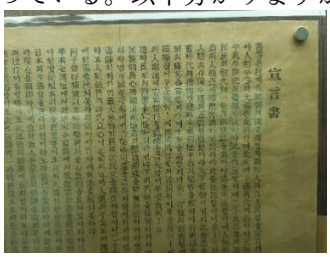
韓関係について意見を出し合い、新たな日韓パートナーシップを構築するとの共通の決意を宣言したといわれている。
「小渕総理大臣は、今世紀の日韓両国関係を回顧し、我が国が過去の一時期韓国国民に対し植民地支配により多大の損害と苦痛を与えたという歴史的事実を謙虚に受けとめ、これに対し、痛切な反省と心からのお詫びを述べた。」
　これをうけて金大中大統領は、「かかる小渕総理大臣の歴史認識の表明を真摯に受けとめ、これを評価すると同時に、両国が過去の不幸な歴史を乗り越えて和解と善隣友好協力に基づいた未来志向的な関係を発展させるためにお互いに努力することが時代の要請である旨表明した。」
　そして、「両首脳は、両国国民、特に若い世代が歴史への認識を深めることが重要であることについて見解を共有し、そのために多くの関心と努力が払われる必要がある旨強調した」。日韓条約で欠けていた、植民地支配の歴史を「共有」したといえるのではないだろうか。
　2002 年 9 月 17 日、平壌を訪問した小泉首相と朝鮮民主主義人民共和国国防委員長金正日が「日朝共同宣言」を発表した。そのなかに次の一節がある。
「日本側は、過去の植民地支配によって、朝鮮の人々に多大の損害と苦痛を与えたという歴史の事実を謙虚に受け止め、痛切な反省と心からのお詫びの気持ちを表明した。」
　2005 年 8 月 15 日、戦後 60 年の小泉首相の談話は次のとおりである。
「我が国は、かつて植民地支配と侵略によって、多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大の損害と苦痛を与えました。こうした歴史、の事実を謙虚に受け止め、改めて痛切な反省と心からのお詫びの気持ちを表明するとともに、先の大戦における内外のすべての犠牲者に謹んで哀悼の意を表します。悲惨な戦争の教訓を風化させず、二度と戦火を交えることなく世界の平和と繁栄に貢献していく決意です。」
　そして、2010 年 8 月 10 日、菅直人首相は、韓国併合（1910 年）100 年を迎えるにあたって次のように述べて、植民地支配の責任を明確にしたのである。
「植民地支配がもたらした多大の損害と苦痛に対し、改めて痛切な反省と心からのお詫びを表明します。」
　この間の日本政府の歴史認識の変化は、日韓市民の、正しく植民地支配の不当性を認識させようとする運動の成果でもあるともいえる。
６）　安倍内閣ののち、菅、岸田と内閣が移ったが、基本的に以上の談話は引き継がれている。
　安倍首相は、戦後 70 年（2015 年）にあたって次のような談話を発表した。
「我が国は、先の大戦における行いについて、繰り返し、痛切な反省と心からのお詫びの気持ちを表明してきました。その思いを実際の行動で示すため、インドネシア、フィリピンはじめ東南アジアの国々、台湾、韓国、中国など、隣人であるアジアの人々が歩んできた苦難の歴史を胸に刻み、戦後一貫して、その平和と繁栄のために力を尽くしてきました。」
　侵略、植民地支配などという言葉を使用せず、ことさら避けているようにみえる談話である。しかし、最後の部分では、従来の首相談話について、「こうした歴代内閣の立場は、今後も、揺るぎないものであります」とのべている。
　明治産業遺産のユネスコ登録については、ユネスコから歴史の一部分を展示するのではなく、強制連行時期も含めた歴史全体と展示するように勧告されている。その勧告に充分に応じることができていない。そのため（？）、佐渡鉱山の登録を延期する動きもあったが、元安倍首相らの働きかけにより申請に至ったと言われている。しかし、その申請も不十分で、仮申請を行い、後日、本申請を行うとしている。
　また、来年２０２３年は関東大震災時の朝鮮人らへの虐殺事件から 100 年を迎える。この問題も日韓市民が連帯して取り組むべき重要な課題である。
　菅、岸田と移った内閣の歴史認識について、私たちは、引き続き注視するとともに、日韓の市民が、さらに共同の運動を進めて、日本政府に植民地支配責任を明確にさせ、日韓条約時を越える新しい日本と韓国の関係をつくりあげることが重要である。

●

　会議後の懇親会は豪華な韓定食だった。申し訳ない。最後には、韓国ＹＭＣＡ金敬敏さんの唄があった。うまいというより、おもしろかった（失礼しました）。次は日本側、となった。私が、18 番の「アチミスル（朝露）」を歌った。それなりに受けた。よかった。
　プラットフォームの日本側運営委員たちは、むくげの会のメンバーと違って「韓国宴会」に不慣れなようだ。
　ホテルにもどり、コンビニでビールとワインの小瓶をかった。風呂に入ってからそれを飲んだ。ワインは小さいのを買ったら「赤玉ポートワイン」だった。甘くて、いただけなかった。Cass ビールはおいしかった。

●

　9 日（水）午前、ソウル日本大使館前で記者会見、そして水曜集会、植民地歴史博物館。博物館で聞いた朝鮮神宮（南山）の話、「朝鮮総督府が、南山ケーブルカーの下あたりを削って朝鮮神宮をつくった。博物館からちょうどその部分が見える」。私は南山には何回も登っているが知らなかった。もうひとつは、博物館の「三一独立宣言書」の原文の誤植。初版は 1 行目「朝鮮」が「鮮朝」となっている。以下分かりますか？



（三一独立宣言書／水曜集会で発言するピースボート野平さん）

　10 日（木）朝、運営委員会は解散。私は、その朝鮮神宮確認のため南山に登った。南山の南から登った。ケーブルで降りずに歩いて下った。（ちなみに韓国のケーブルカーは日本ではロープウェイ）
　朝鮮神宮跡は発掘作業中だった。建設工事のために城壁の一部が壊されていたのだった。

ホテルから見た朝鮮神宮跡、確かに削られている／明洞で世宗ホテル労働組合がデモをしていました

　11 日（金）午前、仁川造兵廠保存問題で中部日報のインタビューを受けた（11.14 掲載）。午後、孝昌公園を訪問。安重根の遺骨が見つかれば埋葬されるという仮墓がある。夜、ひとりで明洞を散策。そしてホテルの近くでチュオタン（どじょう汁）。おいしかった。
　12 日（日）朝 9 時半の飛行機。仁川行きの直行高速鉄道（ソウル駅より 41 分）に乗った。9500 ウオン。関空でまたぶらぶら。ビルの 3 階は改装工事中。いつになったらまた活気をとりもどすのか。心配しながら、家路についた。コロナ下、充実した旅だった。